

会 議 録

会 議 名	第 12 回辰野町立小・中学校あり方検討委員会
開 催 日 時	令和 8 年 3 月 26 日（木曜日） 午後 6 時 30 分～午後 6 時 50 分
場 所	辰野町民会館 大会議室
出 席 者	出席者 委員 17 名中 15 名、教育委員 5 名、事務局 4 名
会 議 次 第	1. 開会 2. 教育長あいさつ 3. 委員長挨拶 4. 協議事項 5. その他 6. 閉会
会 議 結 果	4. 協議 （1）「辰野町立小・中学校のあり方に関する提言書」（案）について、全体で検討し、この（案）を正式な「提言書」として本委員会より教育委員会に提言することが承認された。 5. その他 特になし。
発 言 者	発言の内容
教 育 長	2. 教育長あいさつ 皆さんこんばんは。早いものでこの令和 7 年度もあと 6 日ほどとなってしまいました。年度末の大変お忙しい中、委員会にお越しいただきました。大変ありがとうございます。 先週の火曜日 17 日は町内の全小学校、そして翌 18 日水曜日辰野中学校の卒業式がございました。私、全部の学校を見たわけじゃないんですけども、辰野東小学校と辰野中学校の卒業式に参列させていただきました。両校とも卒業生が非常に良い表情で式へ臨んでおりました。姿勢も堂々として見事でした。こんな姿を見てますとね、自分の 6 年間の小学校生活や、あるいは自分の 3 年間の中学校生活で満足をしている、いよいよ 4 月から始まる新しい生活、新しい環境に向けて第一歩を力強く自分の足で踏み出そうとしている、そんな決意というのを感じたんですね。4 月からの新しいスタートに期待をしたいなと思いますし、新しい環境でまた健やかに成長していくこと、これを願っております。 さて今日のこのあり方検討委員会ですけれども、前回皆様からいくつかのご意見をいただきました。それを今日修正をさせていただいたものを提出させていただきましたので、ご審議をお願いしたいと思います。そして最終的な提言書になればと思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。お世話になります。

委 員 長	3. 委員長挨拶 皆さんこんばんは。早いもので来週はもう4月ということで、年度末のまとめをしながら、また来年度を迎える準備も進んでいるかと思います。寒暖の差はちょっとありますけれども、暖かい日が続いて、周りに見える梅の花が満開であります。桜の開花ももうすぐでしょう。桜が咲き始めるところもあるという話も聞きしましたけれども、春本番に本当に大分近づいてきたなど、そんな気がします。 前回第 11 回の委員会で提言書の案について出されたご意見、今の教育長さんのお話にありましたけれども、その意見を加味した最終の提言書（案）を皆さんに事務局の方からお送りして、3月の18日までにいろいろあったら教えて欲しいと、そういうことでそれを加味して今日の提言書という形で最終のものが本日まとめて配布されております。本日はこの最終の提言書について、前回からの経過また修正点等について事務局より説明をいただいて、その後、辰野町立小・中学校あり方検討委員会の辰野町内小・中学校のあり方に関する提言書という形で、委員の皆さんの承認をいただいて、明日町教育委員会の方へ提案をさせていただくと、そんなふうにしていきたいと思います。 今まで本当に何回か皆さんのご意見を聞いてありますので、その中で十分また見ていただいて、明日提言書を出すような形になります。そんなふうに持っていければと思います。よろしくお願いします。
委 員 長	4. 協議 それでは協議事項の 1「辰野町立小・中学校あり方検討委員会提言書」についてということで、前回からの経過あるいは修正点などについて事務局より説明をしていただいて、その後この検討委員会の提言書という形で、委員の皆さんの承諾をいただいて提出させていただくというようにもっていききたいと思います。それでは事務局より説明をお願いいたします。。
事 務 局	それでは、お願いいたします。 本日机上にお配りした提言書の案でございますけれども、開催通知と一緒にお送りさせていただいた提言書とほぼ同じでございます。先ほどのお話にもありましたように 18 日までに何かありましたら事務局までご連絡くださいということになっていたんですが、1 件もございませんでした。ですので、事務局としてはこれで最終の提言書としたいと判断させていただきましたので、よろしくお願いいたします。 それでは前回 11 回と変わったところ、加除修正したところを中心にお話させていただきます。 1 ページの初めの 1 ですが、まず 2029 年の小学校の児童数ですが、前回のところまでは 556 人約 48%の減少となっておりましたが、その後見直しをかけましたところ、さらに減っておりまして、541 人約 49%の減少と、このようになりましたのでここを修正させていただきました。その次ですけれども、68 人の入学児童は、令和 4 年生まれの子供であると、そしてこの 68 人が 3 つの小学校に分散して入学する、こういうことです。あとは 20 年間で 35 学級から 24 学級と 11 学級、3 分の 1 減少してしまうこと、3 校のうち 2 校が全学年単級になるということ、そして、学級の人数が 10 人を切る

学年も出てくる、このように修正させていただきました。2 番ですけれども、教職員の数のところですが、ここはもうはっきりと教職員の数は定数法によって決められているということ、学級数が減少すると当然学級担任は減少するわけですが、専科の教職員の数も連動して減少してしまう、このように説明を加えさせていただきました。そして最後のところで、辰野町では、人口の減少率よりも子供の減少率が2.5 倍も進んでいるということで、急激な少子化の減少ということを述べさせていただき、義務教育の質的充実の確保のために少子化の進展に対応した新たな学校の形というように変えさせていただきました。続いて、4 ページからの提言でございますけれども、まず、前回ご指摘いただきました提言の語尾をこの委員会から教育委員会への提言というような形で、「検討されたい」とか「推進されたい」とか、そのように揃えさせていただきましたので、お願いいたします。続いて 5 ページ提言 (3) 通学や地域との関わりの課題ですが、ここのところで、まず課題の三つ目の道草のところでご意見をいただきました。このところは、通学途上で自分の足で歩いて体験する、それから五感を使って感じる、これは自然との触れ合いといえますか、6 ページの (2) の自然体験の五感を使った学びというところに繋がる部分ですので、ここは道草っていうことを残させていただきました。それから、一番最後のところ、子供と関わる大人が減っていくこと、人口減少というのが課題として検討していく部分かどうかということですが、人口減少によって、大人が減っていく中でもやはり子供たちと地域との関わりを検討して構築していきたいということでここは残させていただいております。それから2 番の集約した新たな学校、ここは小中一貫した学校のことを言っているわけですが、町への愛着と同時にこれ当然なんですけれども、地域への愛着ということを加えさせていただき、また前回ご意見いただいた、子供たちが地域の一員として活躍できる、そういうところを大事にしていきたいということで、加えてあります。続きまして6 ページです。提言の (3) 教育課程外の活動のあり方、この別の組織、新たな場っていうところでご意見いただいたわけですが、ここに具体的な委員会等の名称を出すかどうかっていうところなんですけれども、この部分の趣旨は、あり方検討委員会で検討する内容ではないということ、他のところで検討するというので、特に別の組織、委員会の名称等は出してございません。それから最後の付帯事項に関わる場所ですが、特に (2) の具体的な検討の過程についての説明、あるいは議論の部分でもう少し当事者っていいですか、集約されるときに直接関わる保護者の皆さんですとか、そういう部分をもっと出した方がいいんじゃないかっていうご意見いただきました。それは当然検討の過程で関わってくことで、具体的な検討の過程において、検討していかなければならないわけですが、これはやはり町民の皆さん全員の課題になっていくのではないかと。この後また生まれてくるお子さんにかかわる町民の皆さんにとっても課題となっていきますので、その部分も含めて町民、保護者、児童生徒、教職員ということで、この部分では大きく捉えさせていただきました。そして一番最後のところに、委員の皆様の名簿をつけ加えさせていただきました。以上です。よろしくお願いいたします。

委 員 長	それでは今説明していただいた「辰野町立小・中学校のあり方に関する提言書」これを、この辰野町立小中学校あり方検討小委員会の提言書として教育委員会に提出よろしいでしょうか。
委 員	はい。(多数)
委 員 長	それでは承認をいただけたということで、明日になりますけれども辰野町教育委員会の方に提言書としてお渡しをしたいと思います。長い時間をかけて 12 回の委員会を経て提言書をまとめました。多くの委員の皆さん、教育委員会の事務局の皆さんに心より感謝したいと思います。ありがとうございました。 それでは協議の (2) の方ですが、全体で協議をしていくようなことがあれば、やりたいと思います。 どうでしょうか。提言書を明日お渡しするわけなんです、教育委員会に何か要望とかお願いがあれば、この機会です、教育委員さんもお揃いですので、ずっと長い時間かけてこの提言書をまとめてきたわけですが、こんなふうに進めて欲しいとか、もしあれば、せつかくです、いかがでしょうか。考えてる間に私の方から一つよろしいですかね。 3 月 10 日付の新聞の報道を見られた方も多いかと思いますが、辰野町の人口の推移について書いてありました。その記事の中に本年度の出生数、過去最少の 65 人。それから辰野町から転出した方々のうちの 4 割近くが 20 代の方、7 歳未満の転出者いわゆる入学前の子供が 45 人、そして小中高生の提出は少なかったという。当然、学校に行っている子供の転出はほとんどないんだけど、これから上がっていく子供たちが 45 人も出ていってしまったという理解ですね。なおかつそのお父さんお母さんであれば、20 代の方々がいなくなるということは、これからはもう少しいわゆる増えるべき子供がいなくなる、それが現実でありますね。それで以前のこの委員会の中で児童生徒数の推移といますか、いろいろまとめていただいたんですが、実際にはこの数字がもっとずっと数が少ないんじゃないかってことですね。それから、65 人の子供たちが生まれたんですが、今後これが転出をするということも十分考えられると。そうすると、これからぜひ教育委員会の方をお願いしたいのは、やはりこれからの見通しというか基準といいますか、はっきりと取り組みの方向を出すことと、もう一つは実際に子供たちの親たちや入学前の親たちが、早い話が辰野町でなくて箕輪町は仕事が結構多いようなんですが、身の回りで出ているその現状をですね、町と一緒にぜひ考えていただきたい。少子化に対応した小学校ができて、子供たちが増えるわけではないんですよね。せつかく新しい学校を作って、たとえ小中一貫校にしたとしても、その子供たちがどんどん減っていくことになればこれは本当に寂しいことであり、あってはいけないことだと思うんですよ。そうすると本当に 1 年も早くこれからの道順というか手順というか、それをしっかり要望を出していただいて、そして実際には私が前から繰り返し言ってるように、3 つの小学校を集約するってどういうことかということですね。この提言書の中に具体的には盛り込んでもらえなかったんですが、実際に教育長さんが議会でもおっしゃったように、大体 10 年度代っていうとあと 12 年しかないんですね。大まかに見てですね、そう

	するとそこへこれから小学校が集約していく、あるいは小学校は全て閉校していく、閉校した後にまた新たな学校を作っていく。今年生まれた子供たちが、ちょうど 12 年という 6 年生ですよね。今年生まれた子供が 6 年生のときに、実際に学校がどんなふうな形になってるかっていうことを考えたときにですね、非常になんかぼやっとしていて見えない現実もあるわけで、やはりその辺を少しでも早く、それが今回提出する提言が少しでも役に立っていただければと思います。いろいろ意見が出てますので見ていただいて、少しでも早く形っていうとおかしいんですが、このあり方委員会でやってきたのは、そのあり方よりももう少し焦点化された所、少子化に対応する新しい学校についてやって来たものですから、学校をどうするかっていうことをもうちょっと考えながら、いろいろな面からやっていかないとと思います。やはり 7 歳未満の子供 45 人が出て行ってしまったということが非常にショックでありましたので、魅力ある学校も含めて、早めにですね、信濃町は 10 年かかって形になってきましたが、川岸も 7、8 年で名前を決めるまで来てるってことを考えると、そんなに時間ないんじゃないかっていうことを思いますので、ぜひまた早め早めのご対応をお願いをしたいと思います。 皆さんいかがでしょうか。提言書の中身について、あるいは教育委員会に対して、もしあればお願いします。 それでは前回皆さんのご意見をそれぞれお聞きしましたので今回は改めてしませんが、ぜひまたいろんな形でですね、ここで話し合ったことや、実際にこれから教育委員会の方から方針が出たときにですね、例えば集約するときこんなふうに今困ってるんだよってことを実感を持てるような、そんなことを元委員として、お願いできればと思います。 それでは（2）のその他も一応終わりましたので、進行の方を事務局の方にお渡しします。
学 校 支 援 課 長	ありがとうございました。 今委員長からもありました通り、明日 11 時から役場の 2 階の大会議室において、委員長、副委員長から教育長に提言書が渡されます。また内容については今日お配りしてある内容そのものになりますのでよろしく願いいたします。 それでは、委員の皆様から何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは 6 の閉会の言葉小口副委員長お願いいたします。
副 委 員 長	6. 閉会 皆さんお疲れ様でした。以上をもちまして、第 12 回辰野町立小・中学校あり方検討委員会を終わります。